

## Today's Mission

①風が、山の方から吹いて来ました。②学校の先生がお通りになると、街で遊んでいた生徒達が、みんなお辞儀をするように、風が通ると、林に立っている若い梢も、野の草も、みんなお辞儀をするのでした。

風は、街の方へも吹いて来ました。それはたいそう面白そうでした。教会の十字塔を吹いたり、煙突の口で鳴ったり、街の角を廻るとき蜻蛉返りをしたりする様子は、とても面白そうで、恰度子供達が③「鬼ごっこするもん寄っといで」と言うように、「ダンスをするもん寄っといで」といいながら、風の遊仲間を集めるのでした。

風が面白そうな歌をうたいながら、ダンスをして躍廻るので、干物台のエプロンや、子供の着物もダンスをはじめます。すると木の葉も、枝の端で踊りだす。街に落ちていた煙草の吸殻も、紙屑も空に舞上って踊るのでした。

(竹下 夢二『風』の一節より)



下線部②は「～するように」をどう処理するかがポイント。下線部③は話し言葉をいかにわかりやすく言い換えるかが大切。レツツトライ！

## 徒然なるままに…

以前、工場見学の話“徒然なるままに…”のコーナーで書きましたが、そこで“つながり”についてふれました。1つの商品を作るために、実にいろいろなつながりが存在しています。実際に工場見学をして改めてそのことを実感したのですが、最近また“つながり”を意識する場面に出会いました。

今、断捨離がよく行われています。自粛期間が続く中、物を整理し、不要なものを処分する動きが多くみられるようになっていきます。私自身も実行しているのですが、現在処分できないものがあります。それは、“古着”です。新型コロナウイルスの影響で、古着の回収、リサイクルがストップしているようです。

一見すると、「ただ回収するだけ」「処分するだけ」と思われがちですが、「古着を回収し、リサイクルをする」という営みにも、実に多くの、そして広いつながりがあるようです。回収やリサイクルにあたるたくさんの方々がおられるのはもちろんのこと、それに関わる工場等が国内のみならず、国外にもあるとのこと。つまり、国外と連携したやり取り・つながりがあるのです。しかし、新型コロナウイルスの影響は、国内のみでなく、海外にも及んでおり、関連業務を一時停止せざるを得ない状況になっているところもあるようです。

一時停止することで、連携が困難となり、“回収⇒リサイクル”という流れをスムーズに行うことが難しくなっています。

“日頃当たり前のように行っている古着の回収、リサイクル”も、あるつながりが途絶えることで、途端に困難になるのです。

“日頃当たり前のようにしている”ことは、“その背景にいる様々な人、会社、国が連携し、社会や生活を支えてくれている”からこそ、実現できているのだ、ということを、改めて感じる機会となりました。何事にも、感謝の気持ちを忘れないことが大切ですね。



～vol.17 へ続く～

35 回生投稿窓口・35 回生質問受付窓口 [takatsuka2019@gmail.com](mailto:takatsuka2019@gmail.com)

(件名に、学年、組、番号、名前、用件を必ず書いて送信。: 気の向くままに vol.0 参照)  
(投稿・質問以外のメールは固くお断りします。休校期間が終了次第、本メールは閉鎖します)

気の向くままに… ～英語で表現コーナー～ vol.17 へ続く

編集 35 回生学年団 3-1 KM